

美術部

みえ高文祭美術・工芸部門

2年 楠 れいか（三重大学教育学部附属中学校）

みえ高文祭美術・工芸部門 生徒特別賞

この作品は、外側から見ると鯨は綺麗だが口の中には汚いゴミが大量に入っていて、それが本当の苦しみや醜さは覗いてみないとわからないということを表しているのだという、友人との話を思案しながら形にしたものです。

今回は最初から作るものが決まっていたので、理解を深めるために鯨について色々な事を調べました。その中で、カツオクジラが、海洋汚染の結果、海面近くにしか餌となる魚がいなくなり、その結果立ち泳ぎで食事をするようになったということを知りました。実際のその動画の中の鯨は苦しそうに見え、そこから、海面にしか食べるものがなく、ようやく餌があったと思って食べたらそれもゴミ、鯨は人間が海へと流した不幸を口の中に入れて飲み込もうとしているのに、人間はそんなことも知らず鯨の姿を見て美しいと思っている、近づいて見た人だけが気づける、そんな鯨の苦しみを、わかりやすく形にしようと考えました。

ダンボールという使い慣れない難しい素材で、試行錯誤もありましたが、完成してみて自分の頭の中にあったものがうまく形になったと感じています。

作品にご指摘いただいた先生方や、投票をしていただいたり感想をくださった生徒の皆さんに感謝し、今後の作品をより良いものにしていけたらと思います。

